

石川県七尾美術館だより

No.104

令和3年 冬

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



「花咲く美術」 「お茶のお道具」

12月19日(土)～令和3年2月14日(日) 【開催中】

「開館25周年」の所蔵品展

おがけさまをもちまして、令和2年4月をもって「開館25周年」を迎えた当美術館。その間、作品の収集活動を継続し、現時点で約760点が所蔵されるに至りました。

それらは主に「池田コレクション」と「能登ゆかりの美術工芸品」に大別されます。ジャンル別では絵画・工芸・彫刻・書・写真など、そして時代別では中世から現代までと、バラエティ豊かな顔ぶれが揃います。

本展では2テーマを設定し、所蔵品より各作品あわせて73点を紹介しています。

「お茶のお道具」(第1展示室)

茶を喫する習慣が日本へ伝来したといわれるのは、実に800年も昔の鎌倉時代頃のこと。以来時代ごとで多様にその形を変化させつつ、現在まで受け継がれています。

さて、茶事ではたくさんのお道具が必要となることから、長い歴史の中でこれまで幾多もの茶道具が整えられてきました。それらは絵画や書、



「山水図」長谷川信春(等伯)



「織部手付水柱」(池田コレクション)



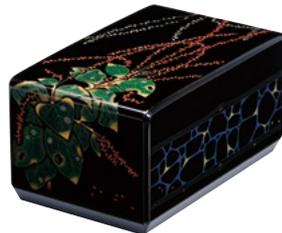
「竹茶杓 銘雪空」惺斎宗左
(池田コレクション)



「花」浜出青松



「青手波に菊丸小皿 古九谷」
(池田コレクション)



「沈金彫水引草飾箱『古城尔而』」
山岸一男

そして工芸など幅広くにわたります。

本テーマでは、当館所蔵品の中核「池田コレクション」を中心に、様々な茶道具など計43点を展示しております。

「花咲く美術」(第2展示室)

私たちにとって、「花」はきわめて身近な存在です。それは日常生活のあらゆる局面に花が欠かせないことにも表れているでしょう。

また花は「華」とも書くように、美的な存在を花に例えるなど、太古より「美しさ」の象徴とされてきました。従って、美術工芸にも格好のモチーフとして採り上げられています。

本テーマでは、当館所蔵品より「花」が何らかのかたちで関わっている作品を、計30点の絵画や工芸などをとおして紹介。めくるめく「フラワーワールド」をご堪能ください。

共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	280円	
	280円		220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「太陽と月」「里山里海」

令和3年2月27日(土)～4月18日(日)

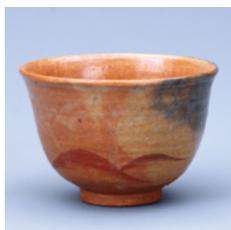
2つのテーマを設け、所蔵品に寄託品を交えて紹介します。

「太陽と月」(第1展示室)

地球上では、毎朝太陽が昇り、日中は地表に光と熱を届け、夕刻には地平線に沈みます。そして夜になると太陽に代わって、空には月が輝きます。このように太陽や月が繰り返し描く軌道と月の満ち欠けは、生・死・再生の象徴であり、古くは壁画として墳墓内を飾り、仏画に描かれるなど、様々な民族や文化において神格化されてきました。また、日々の生活の中では時刻や方位を示す道標であり、豊かな恵みをもたらす吉祥文様となっています。

小惑星探査機「はやぶさ2」の活躍などにより宇宙の謎が少しずつ解明されるなか、高い空に輝く太陽や月に対する神秘性は薄れつつあるのかもしれない。しかし、私たちが太陽と月に抱くイメージが大きく変わることはなく、初日の出や名月など、日月を愛でる風習も数多く残っています。

本テーマでは太陽と月や、その光が映し出す風景、それらを象徴する



「赤楽山文茶碗 銘暁」
樂 惺入(池田コレクション)



「涅槃図」長谷川等善



「カブラ絵合鹿椀」(池田コレクション)



「早春風」谷野吉冬

モチーフなどを、絵画・彫刻・工芸から約20点を紹介予定です。

「里山里海」(第2展示室)

2011年6月、能登半島(宝達志水町以北)に広がる「能登の里山里海」は、日本で初めて世界農業遺産に認定されました。多様な生物資源を有し、伝統的な農林漁法が残り、守られてきた営みが次世代へ受け継がれるべきものとして評価されたのです。

本テーマでは、豊かな里山里海が残る能登の美しい自然風景を中心に、能登の美術工芸を代表する合鹿椀や輪島塗なども紹介します。

また、他地域の特徴ある暮らしの生活文化に注目した作品も展示します。作品をとおして、身近な里山里海を見つめなおしてみませんか。

自然と密接に結びついた作品を、絵画・工芸・写真から約30点を紹介予定です。

共通観覧料

	一般	個人	団体
大高生	280円	350円	280円
一	280円	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。



「七尾城址・能登島図屏風」上田珪草 個人蔵

長谷川等伯展

〔動物表現と北陸初公開作品を中心に〕

令和3年4月24日(土)～5月23日(日) 会期中無休

当館は開館の翌年から、毎年シリーズで「長谷川等伯展」を開催しています。26回目となる令和3年は、動物が描かれた作品と北陸初公開となる作品を中心に、「複製松林図屏風」を加えた22点を展覧します。

長谷川等伯の作品には、動物を描いた作品が多く現存します。そして長谷川派にも、意外と動物が描かれた作品が多く知られているのです。本展では、仏画などに見る《信春時代の動物画》、水墨画に見る《等伯時代の動物画》、等伯画からの新たな展開を見せる《長谷川派の動物画》の3つに分け、様々な動物表現を紹介します。

また、4点の北陸初公開作品のうち、等伯の1点と長谷川派の1点は、所蔵先以外では初公開となります。次号でたっぷり紹介しますので、お楽しみに。

※会期中のイベントについては、例年と異なる場合があります。当館HPなどで追ってご案内していきます。



石川県指定有形文化財
「十二天図」(内、水天部分)
長谷川信春(等伯) 羽咋市・正覚院蔵

水中に住む水天は、冠上に6匹の龍(蛇)を戴き、よく見ると左手には龍索(蛇索)を持っています。



「鳥巢図屏風」2曲1隻(部分)
長谷川等伯 大阪市立美術館蔵

屋間はあまり目が見えない巢をからかうような鳥。巢の逆立った羽根がリアル。巢は、老齢(69歳)で目が見辛くなってきた等伯自身の姿か？

令和3年度 石川県七尾美術館友の会会員募集のご案内

新年度友の会会員を次の要領で募集いたします。現在会員の方で更新をご希望される方は改めてお申込みください。
お申込みのない場合はそのまま退会となってしまいますのでご注意ください。

●入会手続き

受付開始…3月2日(火)から【年度会費1,000円】※1

受付場所…①当館受付カウンター、②郵便振替(郵便振替用紙をご利用ください)※2

※1 会員証は美術館だより第105号(春号・令和3年4月1日発行予定)と一緒に送ります。

※2 郵便局備え付けの振替用紙の通信欄に必要事項《会員の区別(更新・新規・元会員)・郵便番号・住所・電話番号・氏名》をご記入のうえ、会費を添えて最寄りの郵便局窓口へお出ください。払込手数料は申込者負担となります。

【郵便振替口座番号：00710-0-50795 加入者名：石川県七尾美術館 友の会】

●友の会特典

- 1 「美術館だより」を送ります。(年度内4回発行)
- 2 当館及び石川県能登島ガラス美術館主催の展覧会の観覧料が割引になります。(会員本人と同伴者2名まで)
- 3 相互割引提携館主催の展覧会観覧料が割引になります。(会員本人のみ)
- 4 当館主催特別企画展の開会式・内覧会(一部除く)にご招待します。(無料)
- 5 販売グッズが割引になります。(一部除く)
- 6 喫茶室利用代金が10%割引になります。(10円未満切捨)
- 7 研修旅行や美術講座に参加できます。

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、特典の変更や中止となる場合がありますのでご了承ください。

※一旦納入された会費はお返してきませんのでご了承ください。



令和3年度 石川県七尾美術館 友の会会員証

〔象嵌瑞牛置物〕高橋介州(池田コレクション)

石川県七尾美術館だより No.104

発行日：令和3年1月1日

発行者：公益財団法人七尾美術財団

〒926-0855 七尾市小丸山台一丁目1番地

TEL.0767-53-1500 FAX.0767-53-6262

<https://nanao-art-museum.jp>

表紙



「宴」 稲元 実(1946～2013) 平成17年(2005)制作
第37回改組日展出品 ※「花咲く美術」より

ふくよかな白い花びらを幾重にもつけて、今が盛りとばかりに咲きほこるボタン。「富貴花」の別名どおり気品あふれる姿で描かれた花々の饗宴は、まさしく「たけなわ」といったところでしょうか。作者の稲元 実は七尾市出身の日本画家。加藤東一に師事して日展などで活躍、家族などを生涯のテーマとして描き続けました。